

常なる磐

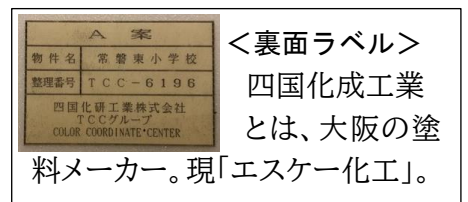
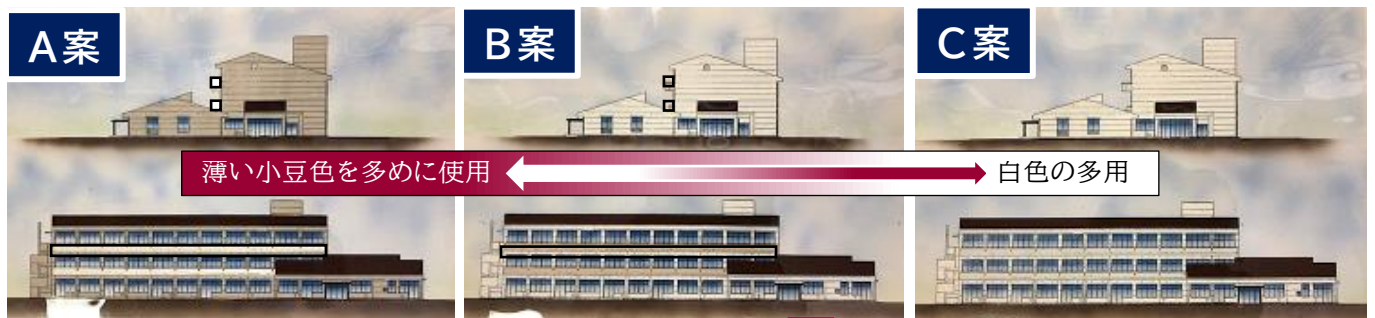
つねなる いわ season II
令和3年11月12日(金)
その2

◇ 白亜の校舎⑥ A・B・Cの三案

教頭職は多忙だ。本校の伊奈教頭も例外ではなく、通常業務に加えて市全体の仕事も担うなど、多忙極まりない。けれども、少し余裕を見つけると、数十年手つかず・放置状態の保管庫を整理している。大変な働き者なのだ。



分類までしてくれているから、探し物には大助かり。中でも「校歴書庫」は自分のお気に入りである。そんな書庫から、ある資料を見つけた。3枚のパネルだ。パネルは、^{おもてめん}表面のカラーイラストと裏面ラベルから、校舎新築時に、塗料メーカーが提案した「校舎壁面色」の提案パネルであることが分かった。



[A 案]:基本色「薄小豆色」+ベランダ壁面「白色」
[B 案]:基本色「白色」+ベランダ壁面「薄小豆色」
[C 案]:すべて「白色」

提示された三案から実際に採用されたのは、[B 案]ということになる。

提案における多くの場合、提示案は三つの案を示すことが多い。

『幾つもの候補の中から3つに絞り込みました。後はお客様の方でお決めください。』
といった具合である。

提示した案の中でも『特にお勧めですよ。迷った場合はこちらでどうでしょうか。』という最上案を[A案]にもってくる。次いで[B]、最後に[C]というのが通例だ。

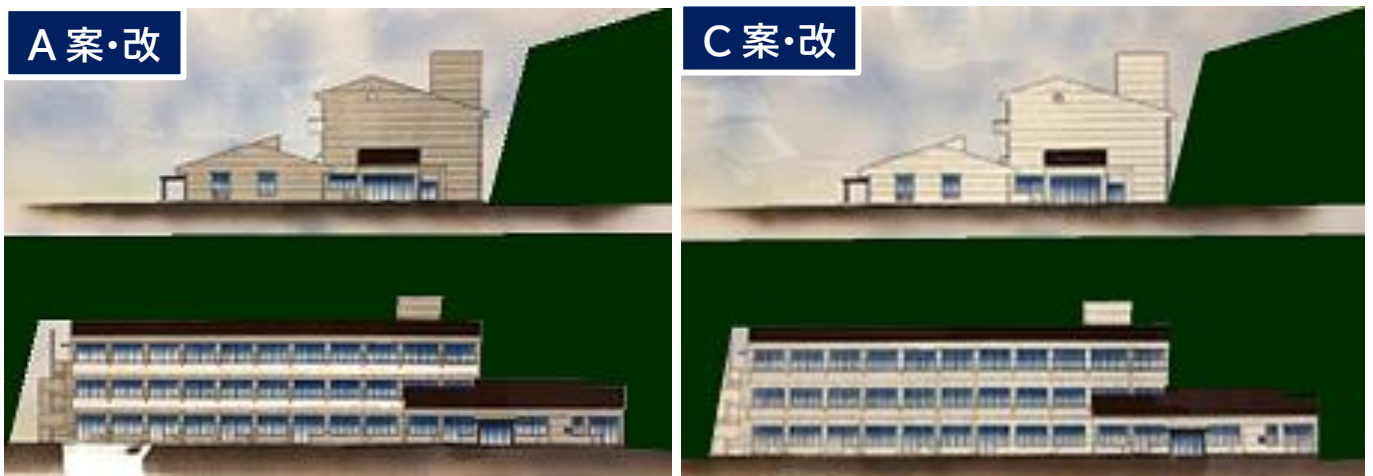
つまり、今回のお色直して塗装する【総白色】は、三番候補ということになる。

とはいえ、今回見つけ出したお宝パネルの存在は、35・6年前の校舎新築時に候補色として土俵にあがっていたことを裏付けている。そのことが何だか嬉しく、総白色彩色に断を下した自信が、ふつふつと湧き上がってくるのだ。

ところで、塗料メーカーが[A案]を最上位に推した理由も分かる。小豆色系統でまとめるトータルコーディネートだろう。しかし、問題は背景だ。パネルの背景は「空」をイメージしたものであること。現状・現場との齟齬はここにある。

メーカーは大阪の会社。設計図を基に塗装案を考え、提案しているのだろう。現場を見ているかどうかは定かではないが、作成した三案の背景イメージからすると、見ていない可能性の方が高いのではないだろうか。

そこで、山背景に彩色加工したのが、下の[A案・改]と[C案・改]二案である



A案・改は「落ち着いた感じ」はあるものの、背景に同化している。

対してC案・改は、めりはりが効いている。山を背に堂々と居を構える佇まい。清潔感があるのもいい。まさに、【白亜の校舎】のイメージにぴったりである。

イメージがわいたところで、シリーズ【白亜の校舎】は一旦小休止に入る。再開は塗装時に。